

社会生活の自立度評価（S I M）

	項 目		点数	
			利用時	終了前
維持する ための 社会生活 の項目	1. 健康管理	必須		
	2. 金銭管理	必須		
	3. 身の回りの管理	必須		
	4. 買い物（買い物先までの移動を除く）	必須		
	5. 家事活動（調理含まず）	選択		
	6. 調理	選択		
	7. 生活のセルフマネジメント	必須		
社会の 一員として 積極的に 参加する ための項目	8	（1）公共交通機関を利用した外出	1つを 選択	
		（2）自動車運転		
	9. 人間関係	必須		
	10. 仕事／学校	選択		
	11. 地域での余暇活動	必須		
	12. 日中活動	必須		
共通項目	13. 制度・サービス活用	必須		
合計（10～91）				

※除外項目は斜線

採点基準（以下は目安である。具体的には各項目の採点基準を参照）

自立	継続自立	7点	安定性や対応力が高い自立レベル
	自立	6点	現段階で自立している場合 (店員や窓口担当等に問い合わせる等、通常ある人的資源の活用を含む)
部分的支援が必要	見守り 限定した活動状態	5点	見守り、時々への促し・助言が必要な状態 見守り等は必要ないが、限定的な活動となっている状態
	最小支援	4点	少しの支援を必要とする状態（75%以上自分で行う）
	中等度支援	3点	部分的に支援を必要とする状態（50%以上75%未満自分で行う）
全面的な支援が必要	最大支援	2点	多くの支援を必要とする状態（25%以上50%未満自分で行う）
	全面支援	1点	殆どの支援を必要とする状態（25%未満しか自分で行えない）

※7点、6点は、自助具の活用や、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合が含まれる。

※1点～4点の（）内の「自分で行う」も、自助具の活用、自らが選択、利用、指示、調整して介助サービス等を利用する場合が含まれる。

なお、選択項目の「5. 家事活動」「6. 調理」は介助サービス等の利用は含まない。

※「〇%以上〇%未満」は、行えている項目の数や行えている程度の割合を基に総合的に判断する。

※実行状況の評価であるため、利用者の意思や意欲は大いに加味される。能力はあるが実行の意思が低く声かけが必要な場合も5